

令和5年度（2023年度）「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」においての市民からの声（提案・意見等）への対応状況

年度	日時	テーマ	担当課	No.	市民からの声 (意見・提案等)	当時の回答内容 (課題、問題点、今後の方針)	令和6年12月末時点		
							対応状況 (プルダウンより選択)	これまでの取組内容	今後の方針等
令和5年度 (2023年度)	12月23日	知っていますか？たからづか食育推進計画～家庭や学校給食での食育について～	学事課	1	文科省が2009年に米飯給食を週3回以上にするよう方針を出している。宝塚は米飯給食が週3回。米飯はいつから増えるのか。	課題を早く整理しながら米飯給食5回実施にすると給食の価格も下がる。他の食材に充実して使えるようになるため、調整も含めて急いで進めていきたい。	済	学校給食運営協議会にて、米飯給食の回数を増やすことについて意見を伺った。	米飯よりもパンを好む子どもたちも多いのも現状である。他市の動向も含めながら、引き続き検討していく。
			学事課	2	僕の友達で時間内に給食を食べられないという子がいる。給食の時間を延ばしてほしいが可能か。	子どもたちが学校にいる総時間の問題もあり、今の時間の配分が決まっている。それでも、学校の中で工夫はできると思う。教育委員会から各学校に、配慮した取組をしてほしいと連絡をする。	済	各校で給食実施時間は異なるが、校時表を変更することは下校時間の調整等も加わり困難な状況である。	小学校1年生は入学当初は4時間目も使用し、時間をかけて給食を実施している。決められた時間内で、食事をすることも食育の一貫になるため、時間配分の変更は難しいと考える。
			健康推進課	3	20代から30代への広報とあるが、20代から30代の人に食育を促すのは難しいと思う。どういった説明をされていく予定か。	見え方として、20代、30代にどう提言していくかというところに目が行くが、自分がこれまで育ってきた中、お子さんがいる方はこれから次の世代にどのように引継ぎをするかと、投げかけようと思っている。	済	（学事課）健康推進課が実施する食育パネル展にも参加し啓発活動を行った。また学校給食展を開催し幅広い年齢層の方に参加いただいた。 （健康推進課）たからの市や福祉フェアに食育ブースを出店。特に20代、30代の無関心層にもブースへの参加を呼びかけ、栄養バランス等の啓発を実施。また食育パネル展においてもイベントを実施し、同様に若い世代への参加の呼びかけを行い、多くの方に啓発を行った。 令和6年度より市内公立小学校における食育出前講座を開催。 子どもたちが学んだことを家庭へ持ち帰ることで親への啓発へつなげた。（計16回578名）	（学事課）様々な啓発パネルを所持しているため、有効な活用方法を今後も検討していく。 （健康推進課）今後も市内で開催されるイベントに食育ブースを出店し、20～30歳代の無関心層への啓発を行いたい。また引継ぎ、小学校での食育出前講座を行っていきたい。
			学事課	4	長期休み中の育成会で、お金は支払うので、給食を出してほしいという意見がある。	育成会の給食については、課題になっている。子ども未来部とも検討していきたい。	済	夏休み中の給食実施について検討をおこなった。	夏休み中は給食室の改修工事もあり、また献立を作成する人、給食を調理する人の配置も現実的に難しい。
			学事課	5	先日、給食にさわらのチョリムが出たが、チョリムとは何かとなるため「さわらのチョリム（韓国風煮付け）」と書いていただけるとありがたいという意見があった。	「さわらのチョリム」は確かにわかりにくい。解説が書いていないのであれば、入れる方向で検討していく。	済	給食のメニューについては給食調理員や栄養教諭が工夫して内容の周知に務めている。	今後も栄養教諭と連携して保護者及び子どもたちが見やすい献立表の作成を行いたい。